

女流義太夫普及公演

# ぎだゆう座

十月公演

男の苦惱、女の執念

二〇二三年 十月一日(日)・二日(月)

解説 〔一日〕竹本 孝矢 〔二日〕竹本 越里

〔一日〕

菅原伝授手習鑑 寺入りの段

浄瑠璃 竹本佳之助 三味線 鶴澤津賀佳

菅原伝授手習鑑 寺子屋の段

浄瑠璃 竹本 越孝 三味線 鶴澤三寿々

〔二日〕

妹背山婦女庭訓 姫戻りの段

浄瑠璃 竹本寿々女 三味線 鶴澤 弥々

妹背山婦女庭訓 金殿の段

浄瑠璃 竹本 越京 三味線 鶴澤津賀花

偶数月の一日・二日は

ぎだゆう座



◎ところ お江戸上野広小路亭 TEL03-3833-1789

JR 山手線御徒町駅下車徒歩3分 東京メトロ地下鉄銀座線・都営大江戸線上野広小路駅 A4 出口すぐ

◎開演 午後6時半(開場6時)

◎入場料 前売り1500円 子ども500円 当日2000円

◎お申し込み (Email) jyogi.gidayuza@gmail.com

◎お問い合わせ (一社)義太夫協会 TEL03-6264-3047 <https://www.gidayu.or.jp>

◎主催 ぎだゆう座 ◎共催 永谷商事



## 菅原伝授手習鑑

【寺入りの段】菅丞相(菅原道真)が太宰府へ流罪になった後、菅丞相より筆法伝授された武部源藏と女房の戸浪は京の外れ芹生の里で菅丞相の一子菅秀才を実子と偽り、寺子屋を開いて暮らしています。そこへ今日が寺入りの子供小太郎と母親が訪ねてきます。戸浪から源藏が留守と聞いた母親は、我が子を戸浪に預け隣村に用事があると立ち去ります。

【寺子屋の段】藤原時平の家来・春藤玄蕃から、菅秀才の首を渡すよう迫られ、帰宅した源藏は身代わりを立てようと考えます。引き合わされた小太郎が菅秀才に似ているので身代わりとして首を討ちます。春藤玄蕃・松王丸の首実検も無事済み、ほっとしたのも束の間、小太郎の母親が戻ってきます。源藏は母親に斬りかかりますが、母親から、小太郎を身代わりのお役に立ててくださいと尋ねられ驚きます。さらに松王丸が現れ、自分の息子小太郎を菅秀才の身代わりとするため寺子屋へ入門させ、自分が検分役を買って出たと明かします。そして北嵯峨の隠れ家から救いだした御台所を招き入れ、若君菅秀才と対面させました。白装束となった松王丸夫婦は、我が子の亡骸を若君に装って駕籠に乗せ、野辺の送りをするのでした。

## 妹背山婦女庭訓

〈これまで〉求馬と恋仲の三輪の里の杉酒屋の娘お三輪は、最近求馬の所へ姫が来ていると聞き七夕に因

んだ赤と白の苧環で求馬の変わらぬ気持ち確かめます。そこに姫が現れ、お三輪と姫は争いに。 姫は三輪の里を逃れ、求馬は姫を追いかけ、お三輪も続くのでした。

【姫戻りの段】三輪の里から御殿に姫が戻ってきました。出迎えた官女が、姫の袂に付いている赤い糸を手繰ると、苧環に引かれた求馬が現れます。ここで求馬は姫が入鹿の妹の橘姫と知ります。橘姫もすでに求馬が入鹿の政敵藤原鎌足の息子淡海であると見抜いていました。求馬は、入鹿が盗んだ三種の神器の一つ、十握の御剣を橘姫が奪い返すことを条件に夫婦の約束をし、橘姫は命を掛けて剣を渡すと誓います。

【金殿の段】苧環の白い糸が途中で切れてしまい、求馬を見失ったお三輪。煌びやかな御殿の前にたどり着きます。通りすがりの端女から、今夜三輪の里から姫を追ってきた男と姫の祝言がある、と聞いたお三輪は、求馬を奪い返そうと嫉妬心をたぎらせ、中へ入り込みます。御殿の官女たちは、その顔色から姫と祝言をする相手の男の恋人と気づき、散々に笑いものにした挙句、緋のお三輪を振り捨てて皆奥へと入ってしまいます。橘姫への嫉妬で逆上したお三輪の前に鎌足の使者として入り込んでいた鱧七が現れ、お三輪の脇腹に刀を刺し通します。鱧七は求馬が藤原淡海であると明かします。また入鹿は母が占いにより白鹿の血を飲み誕生したため、爪黒の牝鹿の血と疑着(嫉妬)の相ある女の生血を注いだ笛を吹くと力が弱まるので、その嫉妬に狂うお三輪を刺したのだと教えます。鱧七は実は鎌足の家臣、金輪五郎でした。お三輪は、自分の死が求馬の役に立つと喜び、来世で求馬に逢うのを楽しみに苧環を抱きしめながら息絶えるのでした。

## 《お客様へのお願い》

- \* 入場時には手指の消毒をお願い致します。
- \* マスクの着用を推奨しております。
- \* 会場備え付けの**スリッパ**は使用できません。**必要な方はご持参下さい。**
- \* 客席には間隔をあけてご着席いただき、大きな声での会話はお控え下さいますようお願い申し上げます。
- \* 37.5℃以上の発熱のある方、それ以外でも咳・痰の症状があるなど体調の悪い方は来場をお控え下さい。入場料をお支払い頂いていた方には後日返金させていただきます。
- \* 演奏中の許可のない撮影・録音はお断り申し上げます。